



TITLE:

# 糖尿病に伴った急性尿道海綿体炎 の1例

AUTHOR(S):

吉永, 敦史; 中込, 一彰; 後藤, 修一

---

CITATION:

吉永, 敦史 ...[et al]. 糖尿病に伴った急性尿道海綿体炎の1例. 泌尿器科紀  
要 2002, 48(7): 435-438

ISSUE DATE:

2002-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114787>

RIGHT:

## 糖尿病に伴った急性尿道海綿体炎の1例

県西部浜松医療センター泌尿器科 (部長: 後藤修一)

吉永 敦史, 中込 一彰, 後藤 修一

## A CASE OF ACUTE SPONGIOSITIS WITH DIABETES MELLITUS

Atsushi YOSHINAGA, Kazuaki NAKAGOMI and Shuichi GOTO

From the Department of Urology, Hamamatsu Medical Center

We report a case of acute spongiositis with diabetes mellitus. A 63-year-old man with a 7-year history of diabetes mellitus was admitted to our hospital complaining of perineal pain and pyrexia. Physical examinations revealed induration and tenderness of the corpus spongiosum, but no signs of rubor or erosion. A laboratory investigation showed leukocytosis (12,000/ $\mu$ l), an elevated level of C-reactive protein (3.38 mg/dl) and hyperglycemia (532 mg/dl). Pyuria and bacteriuria were absent. Magnetic resonance imaging (MRI) yielded abscess-like lesion of the corpus spongiosum. Culture of the aspirated specimen demonstrated B-hemolytic streptococci. Treatment with antibiotics and insulin resolved leukocytosis and tenderness of corpus spongiosum. He left the hospital on the 23rd day after admission and no evidence of recurrence of the spongiositis was found for 1 year after discharge.

(Acta Urol. Jpn. 48 : 435-438, 2002)

**Key words:** Diabetes mellitus, Spongiositis

## 緒 言

海綿体炎は稀な疾患であり, われわれの調べたかぎりでは文献上約20例にすぎない. そのすべてが陰茎海綿体炎である. 今回われわれは尿道海綿体炎の1例を経験したので, 文献的考察を加えて報告する.

## 症 例

患者: 63歳, 男性

主訴: 排尿困難, 排尿時痛, 会陰部痛

既往歴: 56歳時から糖尿病に対し内服治療, 59歳時に上行結腸癌.

現病歴: 2001年1月中旬より排尿時痛, 会陰部痛出

現. 1月24日排尿困難, 強い残尿感のため当科受診. 排尿後導尿施行し, 150 ml の尿が得られた. 尿検査の結果, 有意な尿中白血球は認められなかった. またこの時37.6度の発熱もみられた. 1月25日排尿時痛・会陰部痛の増悪とともに発熱も38度以上になったため当科再受診. CTにて後部尿道周囲に低吸収域を認め (Fig. 1) 膿瘍が疑われたため, 緊急入院となった.

入院時理学所見: 体温 38.6°C, 陰囊に発赤 腫



Fig. 1. Pelvic CT-scan showed low density area (2×2 cm) at the posterior urethra.

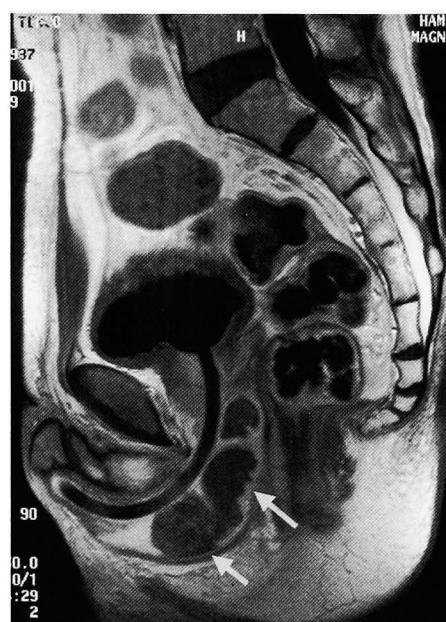


Fig. 2. Pelvic MRI (T2) showed low intensity area at the corpus spongiosum.



Table 1. Previous reports of carvernititis and spongiosisitis

報告者	報告年度	年齢	主訴	誘因	経過	治療
清水ら	1953	日泌尿会誌	陰茎の腫瘍			陰茎切断術
小松ら	1964	日泌尿会誌	77 排尿痛, 頻尿		多発性瘻孔, 陰茎の変形	陰茎切断術
井上ら	1975	臨泌	60 陰茎根部の硬結・疼痛		尿瘻形成, 陰茎の硬化	陰茎切断術
中島ら	1986	西日泌尿	79 陰茎根部の硬結・疼痛	外傷, 異物挿入	尿瘻形成, 精巣炎	陰茎切断術, 精巣摘出術
西田ら	1987	西日泌尿	79 陰茎根部の疼痛性腫瘍	不明	尿瘻形成	陰茎切断術
川島ら	1988	西日泌尿	56 陰茎の腫脹・疼痛	糖尿病, 異物挿入	尿瘻形成	尿瘻閉鎖術
野口ら	1990	西日泌尿	61 陰茎根部の腫脹	糖尿病, 除草薬	尿瘻形成	
星野ら	1999	西日泌尿	66 陰茎の腫脹・疼痛	糖尿病, 仮性包茎	尿瘻形成	陰茎切断術
自験例			63 排尿痛, 会陰部痛	糖尿病		

12,000/ $\mu$ l, CRP 3.38 mg/dl と炎症所見があったにもかかわらず尿検査にて膿尿の所見がなかったこと, B群溶連菌は一般に女性の腔に常在していること, そのため女性の尿路感染症の原因となることはあるがその頻度も多くはないことよりむしろ血行性感染の方が考えられる。しかし抜菌などの既往もなく原因となる感染巣は同定できなかった。

鑑別診断としては Fournier's gangrene があげられるが, この病態の本質は外陰部の皮下より筋膜にまで炎症細胞が浸潤し, 小血管が閉塞することにより起こる急性の壊疽性筋膜炎である。本症例では陰茎 陰嚢に発赤 腫脹などみられておらず, MRI にても皮下 筋膜に異常はみられていない。また Fournier's gangrene の多くは陰嚢を含む外陰部に発症しており, 陰茎より発症したものは1例だけである<sup>3)</sup> これに対して急性化膿性海綿体炎は炎症の主座が海綿体にある点で異なるが, 稀には周囲組織に広く進展した例も報告されている<sup>4)</sup>。

海綿体炎の報告をみると, すべてが陰茎海綿体炎であり, 本症例のような尿道海綿体炎の症例は調べたかぎりでは報告されていない。海綿体炎の局所所見としては, 陰茎の疼痛性腫脹, さらに海綿体に沿った硬結の触知などが挙げられる。本症例も尿道海綿体の疼痛性腫脹, 硬結触知が認められた。

画像診断では, 発症5日目でのエコーにて右陰茎海綿体が低エコー領域として認められた報告<sup>5)</sup>や発症より約1ヵ月後のCTにて陰茎海綿体部に低吸収域が認められた報告<sup>6,7)</sup>があり, いずれも海綿体の膿瘍形成が画像で示されている。本症例でも発症より7日目のCTにて尿道海綿体に低吸収域が認められ, 13日目と15日目のMRIでは尿道海綿体の膿瘍化していく過程が明らかとなった。

治療はいずれの報告でもまず化学療法の開始, 続いて切開排膿あるいはドレーンチューブの留置が行われているが, いずれの報告も排膿がうまくいかず治療に難渋している。本症例も化学療法を開始し, その後2回の穿刺を施行したが合わせてわずか6mlしか排膿

されていない。

本症例のような糖尿病に伴った海綿体炎の3症例の報告をみると, 1例では発症より5ヵ月で陰茎切断という転帰になっている<sup>5-7)</sup> 一方糖尿病に伴わない海綿体炎の症例でも最終的には大多数が陰茎切断という結果になっている (Table 1)<sup>8-12)</sup> 本症例は, 現在発症より1年経過しているが陰茎の疼痛も消失し, 以前触知した硬結もほとんどみられていない。しかし多くの症例では一度軽快した炎症が再燃し陰茎切断に至っているため今後も厳重な観察が必要である。

## 結 語

尿道海綿体炎の1例を若干の文献的考察を加え報告した。

本論文の要旨は第100回静岡県泌尿器科医会にて発表した。

## 文 献

- 1) 井上彦一郎: 海綿体炎. 市川篤二・他編: 日本泌尿器科全書. 6巻. P. 208, 金原出版, 東京, 1960
- 2) 岸 洋一: 急性海綿体炎. 市川篤二・他監修: 新臨床泌尿器科全書. 5巻. B. p. 143, 金原出版, 東京, 1986
- 3) 白川浩希, 横木広幸, 岸 浩史, ほか: 糖尿病性腎症による慢性腎不全症例に発生した Fournier's gangrene の1例. 西日泌尿 57: 694-696, 1995
- 4) 野口正典, 野田進士, 江藤耕作: 除草薬による化膿性陰茎海綿体炎の1例. 西日泌尿 52: 1053-1056, 1990
- 5) Niedrach WL, Lerner RM and Linke CA: Penile abscess involving the corpus cavernosum: a case report. J Urol 141: 374-375, 1989
- 6) Daniel Y, Marc F and Lya A: Tuberculous cold abscess of the corpus cavernosum: a case report. J Urol 144: 351-352, 1990
- 7) 川島尚志, 小濱康彦, 大井好忠: 化膿性陰茎海綿体炎 尿瘻を併発した陰茎プロステシスの1例. 西日泌尿 51: 2017-2021, 1988
- 8) 星野鉄二, 奈須伸吉, 田崎義久, ほか: 急性化膿

- 性海綿体炎の1例. 西日泌尿 **61**: 354-357, 1999
- 9) 清水圭三, 岩城利光: 陰茎癌と誤まれる陰茎炎症性疾患の1例. 日泌尿会誌 **44**: 367, 1953
- 10) 小松須賀男: 症例3題. 日泌尿会誌 **55**: 772, 1964
- 11) 井上武夫, 長田尚夫, 田中一成, ほか: 化膿性陰茎海綿体炎の1例. 臨泌 **29**: 331-334, 1975
- 12) 中島幹夫, 米田文男, 辻村玄弘, ほか: 特異な経過をとった化膿性陰茎海綿体炎の1例. 西日泌尿 **48**: 1685-1688, 1985
- 13) 西田秀樹, 井上明道, 松井克明, ほか: 化膿性陰茎海綿体炎の1例. 西日泌尿 **49**: 917-920, 1986

(Received on August 16, 2001)

(Accepted on March 21, 2002)